

姫路顕栄教会

エピファニー・タイムス

【住所】〒671-1152 姫路市広畑区小松町4-36

編集責任者 牧師・司祭 ミカエル小南 晃

祝ご復活

あなたがたは十字架につけられたナザレのイエスを探しているが、あの方は復活なさって、ここにはおられない。

(マルコによる福音書16章6節)

昨年の復活日はコロナ感染症拡大防止のための緊急事態宣言が発出中で礼拝自体を自粛せざるを得ませんでした。

今年は共に礼拝を守れることは大きな喜びです。しかし感染状況自体は昨年よりさらに深刻です。今後とも感染予防のための対策をしっかりと守りながら礼拝や教会活動を行って参りたいと思います。

空の墓を前にして

十字架にかけられ殺された主イエス・キリストが復活されたという、この喜ばしいニュースこそが福音の中心です。

しかしそのニュースはイエスをお納めした墓の中にその御姿が見つからないという恐れと戸惑いと悲哀から始まりました。

その事実を最初に知った婦人たちについて、マルコによる福音書は「婦人たちは墓を出て逃げ去った。震え上がり、正気を失っていた。そしてだれにも何も言わなかった。恐ろしかったからである(マルコ16:8)」と記しています。しかしマグダラのマリアはその後少し落ち着きを取り戻したのかも知れません。すると寂しさ、悲しみがこみ上げてきたのでしょうか。ヨハネによる福音書を見ると、マグダラのマリアはペトロともう一人の弟子に「主が取り去られました。どこに置かれているのか、私たちにはわかりません(ヨハネ20:2)」と伝えました。

彼女の「どこに置かれているのか、私たちにはわかりません」という嘆きの「どこに」には二重の意味が込められています。

一つはイエスの亡骸が見つからない嘆きですが、同時にイエスと言う存在の「位置づけ」を見失ったという意味が込められています。

即ち、マグダラのマリアや弟子たちにとってイエスはメシア、キリストであった筈なのに、そのことを見失っている嘆きなのです。

背後から呼びかけられる主

嘆きつつ墓の前に佇むマグダラのマリアに復活の主イエスは彼女の背後から「マリア」とその名を呼ばれました。そしてマリアが御声のする方に向き直った時、復活の主イエス・キリストに出会うことになりました。

彼女にとってイエスがおられるべき場所とは墓の中でした。その誤った囚われから解放された時、復活の主と出会ったのです。

このことは私たちにも教訓となるものです。私たちは主イエス・キリストを信じている筈ですが、時としてイエスがキリストであることの意味を見失い、信仰の喜びが消え失せることが起り得ます。即ち「主がどこにおられるのか分らなくなる」のです。その時、振り返って見たいのは、自分はキリストを信じ、探し求めていると思いつつも、キリストという存在はこういうものである筈と私たちの方で決めつけているのではないかということです。

もしそのようなことがあるとしたならば、今一度、謙虚に御言葉を聴くことに努めたいと思います。その時には私たちの背後に立って親しく呼びかけておられる主イエスの御声を聞くことにはなるのではないのでしょうか。

この復活節にあたり、さらに復活の主イエス・キリストの御言葉に耳を傾けて参りましょう。